

目次

ボランティアについて
いっしょに
考えてみよう。



はじめに 西尾雄志	4
-----------	---

ボランティアの現場から 中国ハンセン病快復村でのボランティア活動 「家-JIA-」原田僚太郎さん	6
--	---

第1章 ボランティアって人助けなの？

わたしたちが人助けする理由を考えてみる	12
古代の思想家・孟子も同じ疑問をもっていた	14
遠くの人と目の前の人 人間にとってどうちがう？	18

第2章 ボランティアの原則

ボランティアの3原則 「自発性」「公共性」「非営利性」	22
ボランティアはほんとうに3原則を満たしているの？	24

第3章 ボランティアにひそむワナ

だれにとっての「いいこと」なのか	30
------------------	----

第4章 ボランティアを育てるカギ

話し合いによってよりよい結論をみちびく	36
みんなの知恵を集めるファシリテーション	38

第5章 ボランティアがもたらすもの

社会のしくみとボランティア	42
ボランティアを通じて出会うということ	44
さくいん	47

ボランティアとSDGs

2015年9月25日の国連サミットで、地球環境を保全しながら発展をつづけるための目標「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択されました。SDGsは、2016年から2030年の15年間で国連加盟国が達成すべき17の目標（ゴール）と169のターゲット（ゴールにいたるための具体的な課題）で構成されています。17の目標は、国だけでなく企業や市民が参加し、社会全体で達成をめざすものとされています。

本書では、ボランティアの活動をSDGsの観点からとらえ、SDGsのどの目標にかかわるかを右のマークでしめています。



中国ハンセン病快復村でのボランティア活動

「家-JIA-」 原田僚太郎さん



ボランティアについて学ぶ前に、じっさいに現場で活動した人の体験を聞いてみましょう。原田僚太郎さんは、ハンセン病の元患者（快復者）がくらす中国の村の生活環境を改善する活動をはじめました。村人と交流するなかで「自分には何ができるのか」「どうしたら意味のあるボランティア活動をつづけていけるのか」を手さぐりしながら、地元の大学生をまきこんで活動を広げていきました。

原田さんは大学生のときに活動をはじめたんだ。



1対1の人間関係から見えてきたこと

原田僚太郎さんは、新聞記者をめざす大学生でした。すぐれたノンフィクション作家である本多勝一の本を愛読し、自分もしいたげられている人の側に立った記事を書きたいと思っていたのです。

原田さんは大学3年生のころから国際ボランティア活動に参加するようになります。ハンセン病快復村の支援をするため、広東省潮州市のリンホウ村をはじめとおとずれたのは大学4年生のとき。ハンセン病という病気は神経のまひなどに加え、治療がふじゅうぶんだと、皮ふや手足

に障がい残り、患者は病気がなおったあとでも長く差別や偏見の目にさらされてきました。治療法が確立されても状況は変わらず、元患者（快復者）は人里からはなれた村でくらししているのです。

快復村の人びとはトイレや水道なども満足にととのっていない、そまつな住居でくらししていました。高齢者ばかりで、病気の後遺症で炎症を起こしている皮ふの手あてなども、

見よう見まねでどうにか行っているありさまでした。

原田さんはここに3週間滞在し、生活環境を整備するボランティアを行いました。大きな経験となったのは、村人たちと筆談で話をする時間をもったことです。

「ハンセン病だった人たち」ではなく、彼らと1対1の人間どうしとしてふれあったことで、自分がやりたいことと、相手が必要としていることの重なる部分が見えたのです。快復村の人たちがほんとうの意味で人間らしいくらしをとりもどすには、生活環境を整備するだけでなく、「社会と切りはなされている」状況を変えなければいけないと考えました。

希望するジャーナリストの仕事につけなかったこともあり、原田さんは大学を卒業すると2003年からリンホウ村に住みこんで活動をはじめました。まずは、地元の大学にはたらきかけ、ワークキャンプに参加してくれる仲間を集めました。

快復村の人びとは、学生たちが自分たちに、最初はこわがっても差別せずに接するのをおどろきながらも喜びました。原田さんも中国の学生たちも、つらい思いをしながら生きぬいてきた快復者とさまざまな話をするなかで、大きな力を得ていきます。はじめは、学生と快復者がいっしょに市場に買いものに出かけるすがたを、近くに住む人たちはおどろきの目で見ていました。それがだんだんふつうの風景になっていくと、近くの人たちも快復村をおとずれるようになっていったのです。



2002年、原田さんがはじめておとずれたときのリンホウ村。



ワークキャンプ

国際交流やボランティアの活動方法の一つ。土木作業などの労働をしながら、現地の人びとと同じ環境にとまりこんで交流を行う。

コラム

ハンセン病とは

ハンセン病は「らい菌」による感染症です。皮ふにまだらのしみやしこりができ、末梢神経に菌が感染するとまひが起こります。治療を行わないと、皮ふ、神経、手足、目などに障がい残ります。1943年にアメリカで治療薬の効果が発表され、治療が可能となりました。現在は早期発見と早期治療により、障がいを残すことなく、病院に通ってなおせる病気です。ハンセン病はかつてはたいへんおそれられ、また多くの誤解からいみぎらわれた病気でした。患者や元患者（快復者）は、長きにわたり差別や迫害を受けました。日本と中国をふくめ世界各地に、患者を収容し隔離する療養所がつくられました。中国では、患者の快復とともに医療の機能を失った療養所が村のようになって、人里はなれた場所に残りました。病気が快復した人びとの多くは、この社会から切りはなされた環境で生活をつづけなければならませんでした。

資料 国立感染症研究所



団体データ

団体名称 「家-JIA-」 (JOY IN ACTION)
設立 2004年
住所 中華人民共和国
広東省広州市黄埔区長洲鎮安来三街
44号之二1F
電話 +86-20-3472-1415
ホームページ <http://jiaworkcamp.org/>

わたしたちが人助けする理由を考えてみる

ここでは2つの事例を通して「わたしたちはどんなときに人助けをするか、あるいはしないのか」の思考実験をしていきます。これは決してあなたが「いい人」かどうかをはかるものではありません。ここに挙げた問いについて自分の頭で考え、想像できる自分の行動、その理由を素直にことばにしていきましょう。

ここに挙げた事例でさっそく思考実験をはじめてみよう。



赤ちゃんの命か、1万円のケーキか

では、さっそく一つの事例で思考実験をためてみましょう。

今日はあなたが通っているダンススクールの先生の誕生日です。あなたはスクールで、いちばんの年長です。先生を喜ばせるため、奮発して1万円の高級ケーキを買うことにしました。

ケーキを買ってきたあなたは、両手で慎重にケーキの箱をもって、町を歩いています。このことを知っていてあなたの到着を楽しみに待っている年下の子たち、サプライズに喜ぶ先生の顔を思いうかべながら――。

すると、頭の上から女の人のさけび声がしました。見あげると、8階のマンションのベランダから赤ちゃんが落ちてきたのです！

さあ、あなたはどうする？ 考えている時間はありません。

？ どちらを選ぶ？

- A 赤ちゃんをよけて高級ケーキをまもる。
- B 高級ケーキを手ばなして、赤ちゃんをキャッチする。



おそらくBを選んだ人が多いのでは？

もちろん赤ちゃんを助けるよ。
ケーキはだめになっても、買いなおせばいい。



赤ちゃんの命をすくえるんなら、
1万円くらいすてたっていいよ！



1万円で10人の命がすくえらとしたら

またべつの事例を考えてみましょう。

あなたが電車に乗っていると、NGOの広告が目に入りました。寄付をつる広告で、こんなことが書いてあります。

「あなたの1万円の寄付で、難民キャンプにいる子ども10人の命がすくえます」

人はマンションから落ちる赤ちゃんを目にしたときのように、「考える間もなく」1万円を寄付するでしょうか。落下する赤ちゃんの事例では、1万円と引きかえにすくえるのは1人の赤ちゃん。今回は1万円で、10人の子どもの命をすくえるのです。

？ どちらを選ぶ？

- A 寄付する。
- B 寄付しない。

うーん。この場合、寄付はしないかな。



広告を見ただけで
寄付する人は少ないんじゃない？



？ 理由を考えてみよう

どうして目の前に落ちてきた赤ちゃんは助けても、難民キャンプの子どもは助けられないのでしょうか。

「赤ちゃん」と「NGOの広告」の2つの事例のちがいは何でしょうか。また、1万円のケーキと1万円の現金の価値は同じなのでしょうか。

たとえば経済学の考えかたでくまると、価値が同じとはいえません。現金の1万円はケーキのようにいたむことはなく、また1万円の価値をもつものと自由に交換できるからです。

このように、いろいろな方向から考えてみてください。



NGO

平和や人権、環境問題などに関する活動をしている非営利の民間組織。非政府組織ともいう。



寄付

おもに非営利活動を行う団体に、活動の助けになるお金やものをわたすこと。災害などの被害にあった人にお金を送る義援金も寄付にふくまれる。



難民キャンプ

戦争や災害によって、住んでいた国や土地をはなれた人びと（難民）が集まって住む場所。国際連合の機関やNGOが設置することもある。

ボランティアの3原則 「自発性」「公共性」「非営利性」

みなさんはボランティア活動という、どんなものを思いうかべるでしょうか。福祉ボランティア、海外協力ボランティア、環境ボランティア、介護ボランティア、災害ボランティア、ごみ拾いボランティア……数えあげればキリがありません。内容は多種多様ですが、ボランティアは3つの原則を満たすものとされています。その3原則とは「自発性」「公共性」「非営利性」です。

ボランティアの3原則の意味を考えよう。



3原則をもとに、ボランティアのあるべきがたを考える

ボランティアの3原則「自発性」「公共性」「非営利性」について、その意味を確認しましょう。とりあえず現代の日本では、この3つのすべてを満たしている活動が、ボランティアといえることになります。

1 自発性 だれかに命令されるのではなく、自分から進んで行う。



本の点字翻訳をする。

義務ではなく、自分から「やってみたい」と思う気持ちがボランティアの原点です。「こんな助けが必要なのでは？」と思いつき、世の中にまだない活動のスタイルやしくみをみずから考えてはじめる人もいます。

2 公共性 家族や身近な人のためではなく、広くみんなのためになる。



歩道の花壇の世話をする。

親しい人に親切にするのとはちがい、ボランティアが対象とするのは不特定多数の人たちです。社会を構成する一員として、社会の役にたち、みんながゆたかにくらするようにささえあう活動です。

3 非営利性 仕事でやっているのではない。 お金もうけではない。



被災地で土砂やがれきをかたづける。

ボランティアは、社会に参加したい、人を助けたいという思いからはじまるもので、活動に対して報酬をもとめません。お金もうけや利益を目的とすることはありません（→25ページ）。

? アイデアをもちよう

ボランティア活動を行ううえで重要なのはどんなことか、それぞれに考えてみましょう。「自発性」「公共性」「非営利性」について、またそのほかに大切にすべきことがあるとしたら何でしょうか。

3つの原則に反しないよう注意して、考えてみましょう。



公共

英語の public を訳したことば。私的なこと (private) に対して、社会一般や公のこと、社会に参加する人みんなが広く共有するものなどをさす。



営利

財産やお金をふやし、利益を得ようとすること。お金もうけ。

新たな発想で活動する「先駆性」や、活動が長つづきする「継続性」を原則に加える考えかたもあります。

